



## 巻頭言

渡波 佐藤 晴美

今年の東北の夏は、やませで寒いというような日々でした。1934年の頃は、大凶作でしたが、米作の進歩で不作にはならないと思われ、そして来年の春は、スギ花粉はあまり飛散しない事と予想できることでしょう。春の季節と共に、杉の木の花粉が悪者にされます。でも終戦後、荒廃した黒土の復活に、学校で杉苗

えを植え、そして下草刈りをしたのです。学校林と称し、国の山に全校生徒が一日かけて、作業をしました。1980年ごろまで続いた事と思います。今杉が成長し、木材として活用できるようになりました。

そして全国的に杉の成長と共に、杉花粉による病気が出てきて問題となつていきます。山の復活に早く育つ杉を、生徒だった年齢の若者が仕事をしたのに(おくにのためです、すね)、責任？ただただ淋しい気持ちです。荒廃した山に咲いた山百合が楽し

まれるようになり、この花が海外に持つていかれました。そしてかの地で更に美しく咲いたのでしょうか。品種改良され、更に麗しく気品よく咲いた花、これが「カサブランカ」と名付けられ、日本で又更に美しく咲いていま、価格も安くなり、各地各所で花ひらいているのです。各地で六月には山百合が自然に咲いていきます。東北三陸道はこの時期みごとに咲きほこります。消える事なく、自然に育つ地区をまもってほしいものです。いつまでも...

## ネパールの孤児 大喜び

5月10日(水)、MCH(マナハリ・チルドレン・ホーム)のオープニング・セレモニーに続いて、ダルマスタディにおける二つ目の開所式に岩村義雄会長は招かれました。日本の全国から寄せられた募金により、建造されました。3年前、2015年4月25日、ダルマスタディの大学、高校、小中高、幼稚園などすべての教育施設は大地震によって全壊しました。どれひとつまだ復旧、復興、再建していません。

最初に孤児の施設が誕生するといふので村中の行事になりました。ダルマスタディだけでなく近隣からも聴衆2000人ほ



両親がいないアイッシュ・カバリ君(8歳)も通学 TVインタビュー

どで会場はいっぱいになりました。地元選出のラトウナ・デヴィ議員、大学のラジュ・M・ヨシ学長のスピーチがありました。ヨシ学長は講演の途中で、全員に起立を求めます。昨年10月17日に逝去した「カヨ子基金」の岩村カヨ子のため、黙祷を捧げるように促しました。ダルマスタディも「カヨ子基金」により、孤児たちが恩恵を受けるようになったことへの謝意でした。

5人の孤児たちがNNC(Neighbor Circle)「ネパール・ネーバー・サークル」によって通学できる恵みを地元テレビ局や新聞社はイ



開所式や機構の活動を伝える「ドレッシュオー・デリー」紙



ダルマスタディの開所式 2017年9月28日

ジェクト「栗須哲秀代表」の鯉のぼりがひるがえっていました。「カヨ子基金」の里親になられた方々、日本に住む多くの人々の善意がなければ実現していません。

**ヤマザキ**  
世界のパン  
**ヤマザキ**

**Otsuka**  
株式会社 大塚製薬工場  
〒772-8601  
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115  
TEL 088-685-1151(代表)

**MiYOSHi**  
ミヨシ石鹸株式会社  
〒130-0021  
東京都墨田区緑3-8-12  
TEL 03-3634-1341

想いをかたちに 未来へつなぐ  
**TAKENAKA**  
竹中工務店  
〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13  
〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1



# 第78次東北ボランティア

稲刈り&脱穀

村上 裕隆

台風が日本列島を直撃する時に、機構は神戸から宮城県石巻市渡波に向かいました。9月18日に台風20号は激しい豪雨で目的地である東北地域にも影響を及ぼしました。稲刈りができる見込みは神戸、および現地の方たちも危ぶんでいました。10月22日発の第79次の脱穀も、規模の大きい台風21号が上陸している最中に向かいました。無謀とも思える行動です。幸いにして快晴の中、稲刈り、脱穀も長浜幼稚園(後藤竜記園長)の園児たちは楽しむことができました。

園児たちの願い、「ぼくたち、わたしたちが一番おいしいおコメをつくる」と、気持ちこもっています。5月24日に、園児たちは走り回ってトロトロ層を作りました。それから田植えに「ヒトメボレ」の苗を植えていきました。かえる、イナゴ、おたまじゃくしなどを生まれてはじめて見た時、こわかった子ども達はおっかけ、手につかまえ、はしゃぎました。自然との対話を体験しました。

稲刈りの時、鋸カマで刈っていきます。けがをするかもしれない。もし自分の手を切つて、血が出てもあわてないように、あらかじめ岩村会長は園児たちに話します。自分で痛みを感じたら、今度は友達や他の人の血を流すことをしないようにと付け加

えられました。人の痛みがわかる人間になることについて農作業を通して学んでいきます。現代日本は、家から出て、公園などで友達と群れる光景が少なくなってきました。放課

## 昔ながらの稲刈り体験

園児ら作業通じて食育

石巻市の長浜幼稚園(北川園長)の年長児41人は19日、同市渡波の水田で昔ながらの手作業による稲刈りを体験した。園児たちは鎌を使って収穫した稲穂を手に歓声を上げていた。

ボランティア団体の神戸国際支援機構(岩村義雄代表)が平成24年から始めた企画であり、園児たちは地元で田んぼを所有する亀山繁さんの厚意で、400平方メートルの水田に「ひとめぼれ」の苗を植えて育てた。

岩村代表は「自然に触れることで虫媒がいかに大切かを学び、子どもたちは多くの変化が生まれる。体験を通して食文化について考える機会になればと期待していた。収穫祭は脱穀、精米し、園児がおにぎりを作って味わう。



鎌を使って収穫を体験した

『石巻日新聞』(2017年9月25日付)

## 脱穀作業を体験 長浜幼稚園の園児

震災後の23年から石巻市渡波地区でボランティア活動を行っている「社団法人神戸国際支援機構」(岩村義雄理事長)は24日、渡波字際の田んぼあぜ道で、石巻市流留の学校法人渡波学園「長浜幼稚園」(後藤竜記園長)の園児たちと脱穀作業を行った。



脱穀作業を行う園児たち

『社団法人神戸国際支援機構』(2017年10月27日付)

後、児童クラブに行かないと、家にだれもない子ども達の環境です。家族団らん、友達との遊びが極端に減っています。太陽の下で、交通事故の心配のない田んぼで、思いっきり声を出してもだれもとがめない魅力のある場です。子ども達の心にはふるさとの匂い、色、感触がいつまでも残るでしょう。長浜幼稚園の教師たちの準備、指導、送迎があつてはじめて可能でした。

台風が通過したのがウソのようでした。晴れ渡った秋空の下、来月の収穫祭に向けた豊かな実りを感じました。

石巻がほく  
2017年(平成29年)9月20日(水曜日)



秋空の下で稲刈りを楽しむ園児

## 園児稲刈り晴れやか

11月おにぎりで味わう

石巻・渡波

石巻市流留の私立長浜幼稚園(園児140人)は19日、同市渡波地区の田んぼで稲刈りに挑戦した。園児たちは地元で田んぼを所有する亀山繁さんの厚意で、400平方メートルの水田に「ひとめぼれ」の苗を植えて育てた。

園児たちは「おにぎり」を味わう。稲刈り体験を通じて食育を学ぶ。園児たちは「おにぎり」を味わう。稲刈り体験を通じて食育を学ぶ。

『石巻がほく』(2017年9月20日付)

万石浦幼稚園の年長組男女41人が脱穀作業に参加、関係者の手助けにより「ひとめぼれ」約75kgを脱穀した。園児たちは田植えから稲刈り作業まで手伝った。関係者で脱穀作業を行った。

法律相談初回無料。  
お気軽にご相談下さい。

**シャローム総合法律事務所**

弁護士 宮永亮史 弁護士 中川内峰幸

〒650-0016 神戸市中央区橋通1-2-14  
0120-997-181  
TEL 078-351-1325 FAX 078-351-1270

**ゴーフル®**

いいものは時代をこえて生き続けます

創業明治30年 おかげさまで創業120年

**神戸且月堂**

URL <http://www.kobe-fugetsudo.co.jp>

SERVING MANKIND

**Humanity First**

「ヒューマンティファスト」  
日本アハマディア・ムスリム協会

KINSAN 夢に近づく 夢を産み出す...

**近畿産業信用組合**

総合コールセンター  
0120-111-019





岩村カヨ子を偲ぶ記念会 会場

久紀氏たち  
のあいさつ  
や、奈美悦  
子、並川孝  
太、丸山浩  
司、小菅あ  
ゆみ、丸田  
登喜雄、宮  
田有子、宮  
城石巻市  
の丹野清市  
会議長など  
からの心な  
も感謝しま  
した。  
会に参加  
された方た  
ちから来年

## 岩村カヨ子を偲ぶ記念会

事務局 山本 智也

2017年10月17日(火)午後1時半  
神戸市垂水区狩  
口地域センターが  
いっばいになりま  
した。遠路からも  
やってこられました  
。I・C・Sの  
教え子たち、岩村  
カヨ子夫人から育  
てられた若者たち  
は国の内外のボラ  
ンティアに羽ばた  
いてこられました。痛み、苦し  
み、怒り、くやしさがあある被災  
者たちに寄り添っています。  
岩村カヨ子の友宮田綾子姉  
の逝去昨年9月30日から一年



も続けて欲し  
いと言われま  
した。  
出席者から  
もつと場所が集  
いやすいところ  
にして、定期的  
に開催するよう  
に助言を受けま  
した。  
毎年10月17日  
に、記念会開催  
を村上裕隆が提  
言しました。  
中島信光牧師の祈りで  
閉じました。

## 初めて地球を一回りした日本人

～石巻若宮丸物語①～

阿部 和夫

文化元年(1804)9月7日、ロシアのレザノフが、戦艦ナジェジダ号で長崎に入港しました。驚いたことに、その船には4人の日本人が乗っていたのです。ロシアは、その4人の漂流民を日本に送り届けたという名目で、鎖国していた我が国に通商を求めてきたのです。その人達は、石巻米沢屋の穀船「若宮丸」の乗組員で津太夫・儀兵衛・左平・太十郎の4人でした。  
若宮丸には16人が乗り込んでいましたが、病気のためにロシアで亡くなった人も居ましたし、自らの意思でロシアに残った人もいました。帰国することが出来た4人のたどったコースは、漂流から帰国するまでで、地球を一回りしてしまいました。本人達は意識しなくとも結果的に地球を一回りした最初の日本人ということになったのです。

※ 十一年前の寛政五年(1793)11月27日、

若宮丸は米と材木を積んで石巻から江戸に向けて出帆しました。しかし塩屋崎(現福島県いわき市)沖で嵐に遭遇し、舵を破壊され自力で船を制御できず漂流という事態になります。その上、浸水で積荷の米が水を含んで重くなったので、仕方なくその米の一部を海に捨てることで平常の吃水に戻すことが出来ました。悪いことは重なるもので竜巻や大風に襲われます。12月3日には船の安定を保つために帆柱も切り捨てました。船は太平洋を北へ北へと流され、寛政六年(1794)5月10日にアリューシャン列島のアンドレアノフスキー諸島の小島にたどり着きました。およそ五か月半に及ぶ漂流からやっと陸地に上がることが出来たのです。それまで、なんとか生き延びることが出来たのは積荷に米があったことと雨水をためて水を確保出来たためでした。  
一行は、現地の人々に助けられました。しかし、体のむくみがひどくなっていた船頭の平兵衛は、6月8日に息絶えてしまいました。最初の死者でした。15人の仲間、遠い異国で妻子にも看取られず亡くなった不憫さに声をあげて泣くばかりでした。  
その後、15人は、ロシアの役人によってオホーツクそしてヤクーツクに連れていかれます。(以下次号)

### 岩村カヨ子を偲ぶ記念会

本日は、わたしたち夫婦のために、遠くから、また近くから、またある方は病床において偲ぶために、ありがとうございます。

岩村カヨ子の地上での生涯で、共に笑い、泣き、喜びの会話を交わすことが出来ました。ときををきみしめ、感謝申し上げます。

1995年1月17日、阪神・淡路大震災から、私たち夫婦は小さなリックをかついで、震災の街をあてもなく歩きました。ただただ涙が出てくるばかりでした。須磨、長門、兵庫の人々に寄り添うだけで、何もできませんでした。

家、家族、お仕事を失った人々の痛み、苦しき、怒り、くやしきの支えにはどうもいれませんでした。そんな叫んでいる方々と共に生きていこうと、夫婦の二人三脚がまじりました。

カヨ子は、出入りするI. C. S. や若者たちを励ました。国の内外のボランティアにかかわるようになったみなさまは孤児、独居の独身女性、難民たちとの支「縁」に向かっておられます。創造者なるお方への思いがそうさせたのでしよう。

夫を支え、弱り果てた人々にいのちを捧げましたカヨ子を引き続き、覚えてください。いつまでも「こころ」で語り合いつづけていただければ幸いです。

本日、一年を偲ぶ「日」、ありがとうございます

2017年10月17日

〒655-0049 神戸市垂水区狩口台5-1-101  
岩村義雄 & カヨ子 Tel: (078) 782-9697



偲ぶ記念会メッセージ



TAMANOHADA

代表取締役 三木 晴雄

〒130-0021 東京都墨田区緑 3-8-12  
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124  
URL: www.tamanohada.co.jp

(株)吉原金属

神戸市北區道場町塩田2082

不動産 売買・賃貸・管理・店舗は

本田商会

〒662-0051 西宮市羽衣町5-23

電話: 0798-38-7560

FAX: 0798-38-7561

お気軽にご相談ください。

(有)吉田興業

神戸市兵庫区湊町1-1

## 「田・山・湾の復活」(その十三)

一人で立ち向かう

岩村 義雄

東北が生んだ偉大な器に宮沢賢治「1896(1933)」がいます。賢治は「災害」について本を書いていません。興味深いことに、生まれた年は1896年です。生年に「Tsunami 津波」が世界共通語として定着するきっかけになった「明治三陸大津波」がありました。2万1915人の死者は今でも津波の犠牲者の最高数です。日本で「三陸」として知られるようになったのもこの時以降です。賢治が死んだ年、1933年に「昭和三陸大津波」がありました。賢治の生涯は災害の年に始まり、災

害の年に亡くなりました。賢治が3・11の時、生きていたらどんな行動をとったでしょう。か。「一人づつぶつかって火のついたやうにはげまして行け」(宮澤賢治「春と修羅 第三集」)と記しています。徒党を組んだり、組織でとか、みんながやるから自分も行動を起こすタイプではありませんでした。ですから、ボランティアが全国からやってきたら、ゼッケンを付けさせ、9時から5時まで画一的にどこどこにと割り振るような「官」の発想や、被災現場の地理をよく知らない自衛隊、マルチダウンを起こした原発に対して、「一人」で噛みついたにちがいないと考えます。

機構は、被災地で傾聴ボランティアを通じて、家族の分断、独居に接しました。「無力」を思い知らされます。ともすると、「ニヒリズム(虚無主義)」に陥ります。どうせ無駄で、と無気力な反応が一般的です。しかし、ボランティア道とは、「無力」に思えるところが分かれ目です。

「共感」する動機が基本です。たとえドロ出で、がれき処理などができるなくてもいいのです。不条理な死、孤独、不安に対して、感情移入することはだれでもできます。

「共感」し、「共苦」することにより、「一人」で立ち向かうように賢治はすすめました。

『石巻かほく』つつじ野 第6回 (2017年10月30日付)

## 田・山・湾の復活

つつじ野

賢治は花巻の人々にベーターンの田園を聞かせました。「都会にわざわざ行かなくてもいいよ、ここでもいいんだ」と言いたかったんです。神戸国際支縁機構は「田・山・湾の復活」を旗印にしました。ふるさとを見直す小さなお手伝いが始まりました。北上川の上流に古民家の第一人者佐藤正弘さんがおられます。12年に石巻の「田んぼアート」コウ

宮沢賢治は1931年11月26日(3・11の逆)に「雨ニモマケズ」を書きました。東北人に共通する魂のすゝみがあります。2011年7月に阿部捷一 元船越小学校長に案内されて宮城県学院女子大の新免教授、佐藤金一郎さんと牡鹿半島の名振、船越、谷川などの学校跡を訪れました。過疎高齢化、少子化になっている村に大地震と津波が襲いました。名振で「持論ですが教育が進めば進むほど過疎が進む」と放った満願寺の畑山貴梁住職の言葉は重みがありました。若者たちが郷里を捨てて大都会に住みついてしまつたからです。

ノトリの計画に協力していただいた。兵庫県、宮城県の農学校の生徒、阿部捷一さんのご家族が応援してくださり沢田田んぼアートが完成しました。神戸の若者たちはそれぞれ糧の束もかついたことがありませんでした。釜谷に大川小学校があります。森林組合の依頼で学校の裏のハツトの森で間伐、間引き、枝打ちやまき作り、炭焼きをし顔も真っ黒です。誰にも褒められませんでした。県漁協(丹野一雄組合長)の紹介で石巻市渡波の漁師本田巧さんの船に乗り、ノリの収穫と同市渡波の漁業者である丹野晴雄さんのカキの採掘器を海面からつるす作業もおろろでした。

ボランティアは「つづきのぼん」にすぎません。しかし被災地に行つて「被災者が日本から忘れられていないことを証明することでした。」「素人に何が出来るべ」と冷やかな農民や漁師ともいっしょに「雨風に負けない」静かな笑いが復活していました。(岩村義雄 神戸国際支縁機構会長 神戸市垂水区)

## 救援金、維持会費ご協力を感謝します。

(敬称略)

2017年7月23日～10月21日

神戸国際キリスト教会、徐桂英、坂上順子、尾島淳義、岩村義雄、古川和子、古川直子、酒井彰、酒井久美子、山下妙子、大江良一(2)、坂井良行(高野山真言宗西方院)、さかいようこ、甲斐田敏、観音寺(三鷹市)、宮坂信章、有川純子、村上タカ、水沼幸三、崔勝久、春重祺子、川崎栄子、東垂水ルーテル教会(2)、五百井正浩(真宗大谷派玉龍寺)、石川満澄、石川久子、「小さくされた人々のための福音」講座(2)、西上千栄子、安田吉三郎(2)、柴田珠江、石黒正義、本田寿久(2)、野崎和子、神戸朝鮮高級学校、許敬、庄司慈明(宮城県石巻)、沖縄バプテスト連盟ルア教会(2)、小笠原貞夫、保田茂、藤丸秀浄(法専寺)、菅原よ志子、(株)神戸風月堂、川端勝、三木晴雄、廣森勝久、柴田正生、大田正紀、新井真由美、木村襲治(宮城県石巻市)、KISO牧場、中山敬一郎、阿部純子、ホームチャペルキリストの花嫁、川井浩三、川井拓、ブイ・ティ・オアン、高木保、杉浦征子、袴田康徳、中田美子、山本稔、イエス・キリスト聖伝道教会、河内常男 計720,471円

フードバンク関西、耕支縁(岸本豊、山本勝、上原俊基)から炊き出し用の野菜、杉浦征子からのさつまいも、じゃがいもなど。森岡忠義からたくさんの柿、九州北部豪雨のため、広島の小島美美子(第21、24、31、35、38次)、山本政澄&喜恵夫妻から支援物資を宮島サービスエリアで受け取る。垂水朝陽会、東垂水ルーテル教会から支縁物資、(株)チュウアンナの上田利昭社長から、海外の孤児のための靴下100足などを受領。

「カヨ子基金」

2017年7月23日～10月21日

西崎京子、犬童幸二、坂本好也、新免貢、宮坂信章(2)、今井祝雄、樋口進、永野真治、東灘バプテスト教会、千葉幸一(宮城県石巻市)(2)、兵頭晴喜、藤原りつ子(朝霧病院)、竹内喜子、大島修、大島敏子、北村恭男、ゲーベルひでみ、山田慎一郎、上野登志子、徐桂英、尾島淳義、坂井良行(高野山真言宗西方院住職)、飯原洋子、山下妙子、権英富、崔勝久、春重祺子、川崎栄子、石川満澄、石川久子、五百井正浩(真宗大谷派玉龍寺住職)、坂牧弓絃、大田美智子、横山豊有(無障金剛院住職)、「小さくされた人々のための福音」講座、庄司慈明(宮城県石巻)、小笠原貞夫、野崎和子、石黒正義、坂上順子、沖縄バプテスト連盟ルア教会、三木晴雄、廣森勝久、木村襲治(宮城県石巻市)、大田正紀、岩下喜恵子、小菅あゆみ、西岡本キリスト教会、新井真由美、KISO牧場、中山敬一郎、杉浦征子、川井浩三、川井拓、大嶋善直、渋谷洋一、渋谷孝江、丹野清 現在2,314,820円

## (一社)神戸国際支縁機構

### ●ボランティアや移住者募集中

毎月、被災地へ赴きます。農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。医療関係者歓迎します。詳細はホームページ。

### ●被災地への支援物資もお願いします。

### ●年会費をお願いします。

会員(年度4月～翌3月)の皆さまには、季刊誌などをお送りします。事務局長 本田 寿久

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、一口2,400円/1年 賛助会員は、一口5,000円/1年

#### ●郵便振替

口座 00900-8-58077 加入者名 一般社団法人 神戸国際支縁機構

#### ●三菱東京UFJ銀行

462(三宮支店) 普通 3169863 神戸国際支縁機構 岩村義雄

海外の災害緊急募金には必ず「国名」を書き添えてください。

#### 「カヨ子基金」

●郵便振替 口座14340-96549731 加入者名 カヨ子基金

●みなと銀行 明舞支店(175) 普通 3921374 カヨ子基金

●三菱東京UFJ銀行 三宮支店(462) 普通 3422530 Kayoko Fund

●三井住友銀行 神戸営業部(500) 普通 9821847 カヨ子基金

●みずほ銀行 神戸支店(490) 普通 1817303 カヨ子基金

## 編集後記

九州北部豪雨が起きた2017年7月5日、翌日、機構は神戸の炊き出しを終えて、食材を購入し、福岡県朝倉市杵木に向かいました。7日～9日、杵木中学校の体育館で200名近くの人々に炊き出しをさせていただきました。避難してきた方たちの多くは松木の人々でした。孤立した集落になり、地元の消防団以外は、自衛隊、メディア関係者、朝倉市役所も入ることができませんでした。270戸のすべてが被害を受けていました。

日本の原風景 棚田の農業、林業で幾世紀にもわたり、生きてきた人たちの生活は完全に終止符が打たれました。第六次産業として、「松木そば」などでありわいが支えられるため皆さまの応援をお願いします。 村上 裕隆